国土交通大臣賞コンストラクター日本一決定戦レポート

冷静なレース運びで勝利を奪った山下

富士スピードウェイを舞台に、ＪＡＦグランプリと併せて行なわれる「Ｆ４コンストラクター日本一決定戦」も今年で４回目の開催となった。東西シリーズの12戦に今回のレースを加えた13戦のうち最多勝のコンストラクターに与えられる「国土交通大臣賞」は、すでに８勝を挙げているＺＡＰ ＳＰＥＥＤに決まっているが、国内屈指の高速コースである富士で誰が最速のドライバーとなるのか注目された。エントリーは23台。その中にはもちろん東日本王者の山下健太と西日本王者の川端伸太朗も含まれている。このふたりを中心とした戦いになるのは確実ながら、割って走る存在が現れるかにも注目された。ダンロップ、Ｆ４協会主催の１時間の専有走行が１週間前に開催され、さらに金曜30分のスポーツ走行が２セッションあったこともあり、それぞれ上々のコンディションで予選に挑むこととなった。いきなり１分44秒台に乗せてトップに立ったのは川端だったが、タイヤのウォームアップをより入念に行なっていた山下が１周遅れて43秒台に、さらに１周１秒ずつ詰めていき５周目に山下は41秒２６６でレコードタイムを更新。２番手には石川京侍が41秒７４１、３番手には川端が41秒７４８と僅差で続いたのに対してコンマ５秒の差をつけた。

「練習とはコンディションが違っていたのですが、まさかレコードタイムをコンマ３秒も上回れるとは思ってもみませんでした。途中でピットに入りましたが、もう少しいけそうな感触はありました。スタートで５番手以下に落ちなければ決勝もたぶん大丈夫だと思います」と山下。決してスタートを得意とはしていないが、後にクラッチに問題を抱えていたことが明らかに。なお、４番手は阿部拓馬が獲得し、５番手は自己最上位となる三浦愛。６番手に山口大陸がつけた。

予選以上にさわやかな好天に恵まれた決勝では、山下が不安をよそに無難なスタートを切る。これに対して絶妙のダッシュを見せたのは石川だったが、早めの仕掛けが裏目に出てしまう。１コーナーでブレーキをロックさせてコースアウト。これでトップの山下と川端だけが一歩抜け出す形となった。石川はオープニングラップのうちに３番手まで順位を戻したが、差を詰めることは最後まで許されなかった。それは山下に対する川端にも共通し、３人の間隔は周回を重ねるごとに広がっていったからだ。

後方では予選７番手から一気に４番手にまで浮上した栗原正之と阿部、そして予選９番手からやはり順位を上げていた松井孝允によるバトルがそれぞれ激しく繰り広げられていた。３周目にはまず阿部が４番手に返り咲き、やがてふたつのバトルはつながったばかりか、加藤智も加えることになる。終盤になってより激しさを増し、12周目にまず栗原が８番手にダウン。次の周には山口が松井をかわして５番手に。最終周には山口が阿部もかわした一方で、松井が加藤とのヘアピンでの接触でストップ。そんな戦いはトップ３がそれぞれ単独走行だったこともあり、観客の視線を釘づけにした。

終わってみれば山下が川端に３秒の差をつけて優勝。終盤にはペースを落としていたとはいえ、コンスタントにタイムを刻んでいたため楽勝かと思われたのだが、「実はブレーキがおかしくなっていて最後の方は真っすぐスピードを落とせないぐらいになっていました。序盤からプッシュしてそのまま走り続けるつもりだったんですけど……」と内容には不満の様子。だが、少しも不調であることを悟られずに走り続けたあたりに評価をまた高めたのは言うまでもない。２位の川端は「力不足でした」と敗北を潔く認めていた。なお、アルミモノコック使用のＡクラスはもちろん石川の圧勝。２位は７年ぶりのレース復帰を果たした相馬智宏が獲得。「20年ぶりに表彰台に立つことができました」とベテランがとびっきりの笑顔を見せていた。

山下車はブレーキに不調を抱えていたが それを感じさせることなくトップチェッカー

左：昨年コンストラクター日本一に輝いたB-MAXからタイトルを奪ったのはザップスピード。中：アルミクラスの表彰式。表彰台にはアルミクラストップをのぞいた相場、渡邊、河野が立った。右：ザップスピードのコンストラクター日本一の原動力となったのは、このレースも制した山下（中央）と２位の川端（左）に他ならない。それぞれF108で４勝を記録した。

国土交通大臣賞コンストラクター日本一決定戦

●11月24日 ●富士スピードウェイ ●晴れ／ドライ ●15周

Pos	No	Driver	Team	Machine	Laps	Time/Gap
1	14	山下健太	ZAP・JSS・PFC	F108	15	25'36"128
2	18	川端伸太朗	SUCCEED F108	F108	15	+3"179
3	11※	石川京侍	Rn-s☆佐藤制作所ミストZS	KK-ZS	15	+7"850
4	7	山口大陸	TAIROKU F108	F108	15	+27"168
5	24	阿部拓馬	ガレージ茶畑RK01	RK01	15	+28"211
6	82	栗原正之	テクノクラフト はやぶさ F4	RD10W	15	+30"320
7	15	三浦 愛	EXEDY テイクファースト	RD10W	15	+39"003
8	10	加藤 智	FEEL-RK01-TODA	RK01	15	+40"164
9	51	加藤正将	チームNATS・MARS090	MC090	15	+42"894
10	3	浅原悠貴	CMインダストリー・RK01	RK01	15	+47"921
11	34	三浦 勝	CMS090	MC090	15	+1'11"130
12	70	伴 貴広	DUNLOPTeamNaoki	MC090	15	+1'15"694
13	88※	相馬智宏	東京工科自動車大学校 006	WEST006	15	+1'26"953
14	73※	渡邊義人	チームNATS・エクシズ006	WEST006	15	+1'33"809
15	13	吉田基良	B-MAX RK01	RK01	15	+1'38"593
16	74※	河野詩音	エクシードウエスト056	WEST056	15	+1'39"160
17	66※	中嶋香子	CMSジェムシズOWLS006	WEST006	15	+1'39"194
18	6※	中村俊行	SupeWind's 056	WEST056	15	+1'40"066
19	25	松井孝允	サムライサポーターズRK01	RK01	14	−1Lap
20	4	佐々木祐一	仙台DayDream☆108	F108	14	−1Lap
21	27	小松周司	B-MAX RK01	RK01	14	−1Lap
以上完走（規定周回数 13Laps）						
	80※	倉富秀樂	NRS 006	WEST006	4	−11Laps
	72	金井亮忠	チームNATS・正義 001	NATS001	3	−12Laps

※はアルミクラス

予選４番手から決勝ではひとつ順位を落として５位フィニッシュを果たした阿部（上左）に対して、予選７番手から順位をひとつ上げたのが栗原（上右）だった。FCJにも参戦する女性ドライバー三浦（#15）は予選５番手を獲得して決勝でも奮闘するが、経験値と決勝での速さに山口（#7）にかなわず順位を明け渡した。山口は最終的に４位。

DUNLOP F4東西シリーズはダンロップタイヤのワンメイクレースです
F4協会HP www.formula-racing.org